

分科会活動報告

2020年度環境過敏症分科会活動報告

北條祥子¹⁾²⁾ 水越厚史³⁾ 黒岩義之⁴⁾⁵⁾

1) 東北大学大学院歯学研究科

2) 尚絅学院大学

3) 近畿大学医学部環境医学・行動科学教室

4) 帝京大学医学部附属溝口病院脳神経内科・脳卒中センター

5) 横浜市立大学医学部脳神経内科

Report of the Environmental Sensitivity Subspecialty Meeting (2020)

Sachiko Hojo¹⁾²⁾, Atsushi Mizukoshi³⁾, Yoshiyuki Kuroiwa⁴⁾⁵⁾

1) Tohoku University Graduate School of Dentistry

2) Shokei Gakuin University

3) Department of Environmental Medicine and Behavioral Science, Kindai University Faculty of Medicine

4) Department of Neurology and Stroke Center, Teikyo University School of Medicine, Mizonokuchi Hospital

5) Department of Neurology, Yokohama City University School of Medicine

1 分科会の設立趣旨・目的

環境過敏症（環境不耐症）は日常生活の外的環境刺激に対する感覚過敏症状（光過敏、音過敏、臭い過敏、気圧過敏、化学物質過敏、電磁過敏）に加えて、自律神経・内分泌症状、免疫・アレルギー症状、慢性疼痛、慢性疲労、記憶・情動障害などの多彩な全身症状を特徴とする健康障害の総称であり、アレルギー疾患と密接な関係がある。代表例として、シックハウス症候群（SHS）、化学物質過敏症（MCS）、電磁過敏症（EHS）が挙げられる。近年、先進国を中心に、患者の急増が問題視されており、早急な病態解明や予防対策が求められている。本分科会の目的は国内外の幅広い分野の研究者と情報交換・情報共有を行いながら、科学的に未解明な環境過敏症の病態解明のた

めの基礎的研究を行い、その研究成果をわかりやすく一般市民にも提示し、環境過敏症に関する認知度をあげることである。

2. 分科会組織

メンバー 43名 アイウエオ順 *：幹事

代表：北條祥子（東北大学大学院歯学研究科）

副代表：黒岩義之（帝京大学医学部附属溝口病院）

水越厚史（近畿大学医学部）

〈医学・医療分野〉

相澤好治（北里大学名誉教授）、青木真一（秋田

協立歯科医院）、石川 哲（北里大学名誉教授）、

上田 厚（NPO 法人アジアヘルスプロモーション

ネットワークセンター)、上田昌文(市民科学研究室)、内山巖雄(京都大学名誉教授)、大澤 稔(東北大学病院)、奥村二郎(近畿大学医学部環境医学・行動医学教室)、小倉英郎(高幡会大西病院)、角田和彦(かくたこども & アレルギークリニック)、坂部 貢(東海大学)、*鈴木高弘(東北大学大学院薬学研究科)、鈴木珠水(獨協医科大学看護学部)、平久美子(東京女子医科大学)、高塚俊治(岡山駅前歯科診療所)、高野裕久(京都大学)、土器屋美貴子(大分大学)、*中里直美(国際医療福祉大学熱海病院薬剤部)、西影京子(よこはまにしかげ小児科・アレルギー科クリニック)、*乳井美和子(そよ風クリニック)、松井孝子(秋田大学)、宮田幹夫(そよ風クリニック)、山國 徹(東北大学薬学部)、吉田貴彦(旭川医科大学)、渡井健太郎(国立病院機構相模原医療センター)

〈生物学・化学・物理学・工学・社会科学分野〉

池田耕一(日本大学)、一條祐介(東北文化学園大学大学院)、岩崎由美子(総合地球環境学研究所)、木村-黒田純子(環境脳神経情報センター)、近藤加代子(九州大学)、東門田誠一(尚絅学院大学)、徳村雅弘(静岡県立大学)、二科妃里(東北文化学園大学大学院)、*黄 琳琳(台湾正修科技大学)、黄 友莉(熊本大学大学院医学研究科)、星野陽子(足利市立北郷小学校)、宮田英威(東北大学)、柳沢幸雄(東京大学名誉教授)、柳田徹郎(東京大学大学院工学研究科)、吉野 博(東北大学名誉教授)

3. 2020年度の活動状況概要

本年度は“新型コロナ時代に環境過敏症患者の発症予防をめざして”というテーマを設定して、以下のような活動を室内環境学会環境過敏症分科会との共催で実施した。

3.1 オンラインによる勉強会(第1回)

開催日時:2020年9月21日14時-17時

企画(司会):北條祥子、黒岩義之、水越厚史

参加者:30名

開会の挨拶 北條祥子(主催者:代表)

第1部 勉強会

座長 水越厚史(近畿大学)

- 1) 吉野博:新型コロナ対策としての換気
- 2) 渡井健太郎:日本の化学物質過敏症患者の網羅的遺伝子解析研究の結果

以上の2人の先生より話題提供いただいた。各先生の発表に対し、参加者から質疑応答がなされた。

第2部 水城まさみ先生(本分科会副代表、2020年9月6日ご逝去)をしのぶ会

- 1) 追悼の言葉・黙とう

水城まさみ先生の遺影のお写真を背景にして、一分間の黙とう。その後、北條がご主人様の追悼文「優しく誠実に生きた妻へ感謝を込めて」を代読し、水城まさみ先生のご功績ご紹介と追悼の言葉を述べた。

- 2) 水城まさみ先生の御遺著「宮田幹夫監修、水城まさみ・小倉英郎・乳井美和子著:化学物質過敏症対策-専門医・スタッフからのアドバイス」の内容紹介

発表共著者:小倉英郎、宮田幹夫、乳井美和子

- 3) 追悼会:参加者全員が水城先生に対する想い出や追悼の言葉を述べ、今年度の最優先課題として御遺志を尊重し、環境過敏症の研究発展に尽くすことを確認した。

閉会の挨拶 黒岩義之(主催者:副代表)

第1回オンライン勉強会の報告は、「室内環境(2020年12月号)」に掲載し、DVDにまとめた。冊子体は今後学会時等に配布する予定である。

3.2 オンラインによる勉強会(第2回)

開催日時:2020年12月20日(日)13:00-15:45

参加者：23名

開会の挨拶：北條祥子（主催者代表）

第1部 研究発表（健康調査・疫学） 13：00－14：20

座長：柳沢幸雄（東京大学名誉教授）、土器屋美貴子（大分大学医学部）

- 1) 横田俊平（横浜市立大学名誉教授）：小児科医からみた身体症状を訴える登校障害児の実態と今後の課題
- 2) 水越厚史：QEESI等既存の国際共通環境過敏評価用問診票と現状の環境因子の探索的実態調査に基づく新規環境過敏評価用問診票の開発
- 3) 中里直美：脳脊髄液減少症の感覚・免疫過敏症に関する薬剤師調査報告～当院問診票と服用薬調査の結果を中心に～
- 4) 鈴木高弘：世界共通問診票を用いた脳脊髄液減少症患者の環境過敏反応に関する調査
- 5) 北條祥子：QEESIとEHS問診票を用いた日本人の環境過敏に関する実態調査と今後の課題
- 6) 黄友莉：EHS問診票とQEESIとを用いた日本のスマホ世代（高校生・大学生）の環境過敏度に関する実態調査

第2部 研究発表（政策・指針・管理・情報） 14：30－15：30

座長：寺田良一（明治大学）、浦野真弥（環境資源システム総合研究所）

- 1) 黄琳琳：大学生の健康保全に配慮した学食の室内環境の構築
- 2) 柳田徹郎：アレルギーや環境過敏症患者にも配慮した「まちづくり」計画をめざして
- 3) 上田厚：環境過敏症に関する社会医学的考察－化学物質過敏症患者のエコロジカルな生活スタイルに学ぶ－
- 4) 黒岩義之：視床下部の生命界における起源と2元的制御パターン（緊急事態型と平常時型）

第3部 今後の活動についての審議 15：30－15：40

- 1) 室内環境・環境過敏症特集号について
- 2) 水城まさみ先生の御遺著の普及について
- 3) 今後の環境過敏症分科会活動方針
- 4) その他

閉会の挨拶：柳沢幸雄（東京大学名誉教授）

第2回オンライン勉強会の報告は、室内環境（2021年4月号）に掲載し、また、DVDにまとめた。冊子体は今後学会時等に配布する予定である。

3.3 幹事連絡会

オンラインによる幹事連絡会を行い（2020年8月31日、9月19日、10月11日、11月5日、12月18日、2021年1月13日、2月16日、3月20日、4月12日、5月7日）、活動内容等について議論した。

3.4 メーリングリストによる情報提供と意見交換

日常的にメーリングリストを通して、各研究者の研究成果の紹介、環境過敏症関連情報（香害、子どもの行動障害、スマホ依存症、5Gによる電磁波障害について等）、時事問題（例：コロナウイルス対策情報など）を実施した。